

■第 31 回 START プログラム (ニュージーランド)

2016 年 3 月 11 日から 3 月 28 日までの約 2 週間、第 31 回 START プログラムに学部 1 年生 30 名が参加し、森田愛子准教授（教育学研究科）ら引率教職員 3 名と共に、協定大学のオークランド大学（ニュージーランド）に短期留学しました。

留学先のオークランド大学教育学部において、学生たちは 3 グループに分かれ、ほぼ毎日午前中は ESL クラスが行われ、3 名の担当教員から英語の語彙や発音、文法、会話表現などに加え、最終プレゼンテーションに向け、資料の収集方法、ドラフトの書き方、プレゼンの進め方等も学びました。また、午後にはオークランド大学教育学部の先生方によるニュージーランドの歴史や教育、文化を学ぶ講義や、オークランド大学の現地学生向けの正規授業へ参加しました。当初は英語での授業に戸惑いを見せ、発言や質問することを躊躇していた学生達でしたが、積極性や質問することの大切さを学び、徐々に活発な授業展開がなされるようになりました。

留学の集大成である、ニュージーランドに関する最終グループプレゼンテーションでは、日本での事前準備に加え、現地学生やホームステイ先の家族へのアンケート調査や、学生たち自身の現地体験の動画上映を行うなど、各グループで工夫を凝らした発表をすることができ、オークランド大学の先生方から好評を得ることができました。

小学校訪問時の日本文化紹介は、学生たちの事前準備と前述の指導教員によるブラッシュアップにより大成功を収め、学生と児童共にとっても貴重な異文化交流体験となりました。

また、課外活動として博物館や休火山、開拓移民時代を再現した体験施設をはじめ、オークランド郊外にあるニュージーランド特有の雄大な自然を訪れ、ニュージーランドの歴史と文化へ多角的に触れることで、日本での事前学習とは比較にならないほど多くのことを学ぶことができました。

今回も過去 2 回のプログラムと同様に全学生が一人一家族のホームステイを体験しました。ほとんどの学生が初めてのホームステイ体験であり、滞在前はホストファミリーとの生活に不安や悩みを吐露していましたが、ステイ開始後は慣れない英会話に四苦八苦しながらも積極的に打ち解けるよう励んだことで、約 2 週間で有意義かつ快適に過ごすことができた様子でした。帰国前のホストと最後に言葉を交わす際には、今まで経験したことのない環境での生活を優しく支えてくれたホストファミリーへの感謝や別れを惜しむ気持ちから涙する学生が多く、ホームステイでは英会話や異文化学習に加えて、国や人種を超えた人と人との繋がりや温かみに触れることのできた、とても貴重な経験となったようです。

帰国後の事後研修では各自が英語で 3 分プレゼンテーションを行い、「将来は海外で働ける職業に就きたい」、「もっと長期の海外留学に挑戦したい」、「帰国後も START の経験を忘れず、大学生活を続けたい」などとふり返る学生が多く、本プログラムでの経験を良い契機

として、今後の学生生活や将来の目標をより具体化し前向きに行動していくという決意が見受けられました。



英語の授業の様子



現地学生との交流の様子



小学生への日本文化紹介



オークランド郊外での課外活動